

大阪府協会ニュースレター 2009

◆ 目 次

- ◎全日本リレー特集（４）～「レース走行記」（出場選手からの投稿）～
- ◎大阪オリエンテーリング・アーカイブス[２]
「摂丹街道での第 6 回インカレを運営して」【河合利幸】・・・P 2
- ◎連載・第 4 回 「国際交流とオリエンテーリング」【番場洋子】・・・P 5
- ◎関東だより<<5>>【瀧川英雄】・・・P 6
- ◎大会レポート「パークＯ大阪大会」【大阪ＯＬＣ】・・・P 7
- ◎大会PR 「大阪 OLC トレイルＯ大会&フットＯ練習会」・・・P 13

特 集 ・ 全日本リレー大会（４）

【総合成績】

優勝	東 京	31点	(ME9、WE6、WS6、MS5、WJ5)
2位	埼 玉	24点	(ME7、WE3、MV5、XV5、WS4)
3位	神奈川	22点	(ME8、WE9、WV2、XV2、MS1)
4位	千 葉	21点	(ME4、WE5、MV6、WS5、MJ1)
5位	愛 知	19点	(ME3、WE2、XV6、MJ5、MS3)
6位	宮 城	17点	(ME1、WE4、MJ6、WJ6)
7位	茨 城	16点	(ME6、WE8、MS1、MV1)
8位	大 阪	12点	(ME1、MS4、MV4、WS3)
9位	静 岡	8点	(ME5、MS1、MJ1、XV1)

走行記—選手からの投稿

⇒ HP版には掲載しません

「摂丹街道での第 6 回インカレを運営して」

河合 利幸(OLC レオ)

1. はじめに

実行委員長を務めた第 6 回大阪インカレのことを書いてほしいと頼まれたものの、84 年 3 月のことで既に 25 年余りが経過、記憶も記録もどこへやらといった状態です。間違いなどあればご容赦ください。

2. 経緯

日本学連の過年度活動報告書をお持ちであれば、その第一部、山川氏による概説Ⅰを読んでもいただくのが一番です。とはいえ、お持ちでない方も多いでしょうから、簡単に説明しておきます。当時はまだ日本学連は結成されておらず、日本学生オリエンテーリングクラブ連絡協議会(以下連絡協)という、大学クラブをメンバとした比較的緩やかな組織がインカレを主催していました。何しろ関西学連ができたのが 80 年 4 月、各地区とも組織の整備途上でした。第 6 回インカレは、いわゆる「笹谷ビジョン」「山川ビジョン」に基づき、連絡協主催の最後の大会(第 7 回以降は日本学連主催)として、初めて大井川を渡り、関西地区で開催されることになりました。私が実行委員長を引き受けたのも、関西学連初代委員長として連絡協発足に深く関わったため、いわば自然な成り行きといえます。

なお、第 6 回までは 1 日制で、今という個人ロング競技のみ、団体戦としては選手権クラス出場者(男子 4 人、女子 3 人)の合計タイムを競うというものでした。第 3 回からは参加者全員が前泊するというインカレ独特のスタイルが確立されていました。

3. 準備

準備に当たったのは主に関西在住の大学 OB です。当然のことながら、それほど層は厚くなく人数は限られていました。一方、その半分ほどが OLC レオのメンバであった(もしくは、後にメンバになった)こともあり(残りは OLP)、比較的意思疎通が行いやすかった記憶があります。当時はケータイもインターネットもありませんでしたから、これは結構重要なことでした。また、競技に影響のない部分の準備・運営に関しては、その多くを現役学生に任せるという、今でも行われているスタイルを採りました。

ただし、地図調査については問題がありました。当時、関東では通行可能度入りの精度の高い O-MAP が数多く作られていましたが、地方ではまだまだでした。実行委員の多くは調査経験が乏しく、遅々として進みませんでした。そこで、関東の山岸氏、山川氏、村越氏、多田氏に助けられました。我々が何ヶ月もかかっていたところを、ものの数日で調査してしまったのには、改めてレベルの差を痛感させられました。

4. テレインと宿泊地

インカレを関西で開催するにあたり、一番の問題はテレイン(当時はゲレンデと呼んでいた)でした。インカレを開くに値する、斜度が比較的緩く通行可能度のよいテレインはあるのか、あるとしたらどこなのか。今でこそ、箕面で全日本というように多少の急斜面や藪は許容されていますが、当時はそういう雰囲気ではありませんでした。調査能力のことを考えると、遠方では無理です。私と他数名で関西各地の候補地を調べ回りました。その中には、京北町、近江希望ヶ丘、奈良野外活動センター近辺など、後に続々と O-Map が作られることになるテレインが含まれていました。当初有力だったのは京北町です。可能度が比較的よいうえ、修学旅行宿が多い京都に近く、バス輸送可能な範囲だったからです。しかし、松茸林のため、多人数での立ち入りが難しい場所があるということがわかり、断念せざるを得ませんでした。

そんな中、ふと見つけたのが大阪府茨木市・豊能町と京都府境の「摂丹街道」(テレイン西側境界の国道 423 号の別名)でした。最初に見たスーパー A の植林地(1 次調査者の名前をとって「城森」と呼ばれた)の印象が、よくも悪くもすべてでした。可能度のよい場所は、実際にはそれほど大きくはありませんでしたが、大阪府内の林としてはインパクトが大きかったです。それに加えて、私の出身高校には当時、茨木市内の高校から妙見山まで徹夜で歩いて往復するというイベントがあったのですが、その夜間の休憩場所がインカレの会場として使わせてもらった東能勢小学校だったり、ある阪大生の実家がテレイン内にあったり、豊能町議と知り合いの実行委員がいたり、何かと地元交渉がしやすい条件が揃っており、非常に好都合でした。

問題は宿泊先です。700 人程度が一箇所に宿泊でき、バス輸送するにしても当日朝に渋滞に遭わないことなどの条件を満たす必要があります。国道 423 号経由の池田・箕面近辺と、国道 9 号経由での輸送となる京都市内の 2 案が考えられました。宿泊可能人数から、結局は、市大 OB の橋本氏の紹介で四条烏丸(だったと思う)にあった京都旅行会館に決めました。

5. トラブル

最大のトラブルは積雪でした。2 月の試走会当日はまれにみる大雪で、多いところでは膝上まで(もっと?)積もっていました。幸い雪はやんでいたもので、試走自体は決行されまし

た。関東から村越氏らも招いて行ったのですが、タイム自体はまったく参考になりません。レース本番までに雪が消えてくれることを祈りましたが、結局、日当たりの悪い林の中ではかなりの量の雪が残りました。コースは厳しめに設定していたので(男子 11.2km, アップ 640m, 20 コントロール, 女子 6.8km, アップ 290m, 12 コントロール), ウィニングタイムが大幅に伸びてしまうのではと危惧しました。ところが、男子は 90 数分とほとんど予定通りという奇跡。女子の上位勢も大きな問題はありませんでした。

もう一つのトラブルは、前日のトレコースで自殺死体が発見されたことです。トレコースは京都の東山で、寺嶋氏が仕切っていたと記憶しています。私は京都旅行会館におり、開会式を始めようとしていた頃にその知らせが届きました。適切に処理されたおかげで、大事には至らなかったのは幸いでした。

個人的には修論提出の切間際で、実は開会式会場でも隠れて執筆していました。今から思えば、よくぞ無事修了できたものです。

6. おわりに

積雪を除けば、当日は大きなトラブルもなく終えることができました。手前味噌ではありますが、関東圏(富士山麓を含む)以外での初めてのインカレとしては上出来だったのではないかとと思っています。これは、学生スタッフも含め、実行委員のそれぞれがやるべきことを自ら考えて動いてくれたおかげです。

当時は E-Card もなければ PC もない、すべて手作業の時代でしたが、レースは個人ロングだけとシステム的には逆に単純なものだったから、少人数であってもうまく運営できたのかもしれませんが。今日、いろいろな面で便利になった反面、大会運営は専門性が増し、トラブル内容やその対策は高度化、複雑化しています。詳しい人にしか対応できない、処理できないことが増えていないでしょうか。弱小化が進む関西の大学クラブ(大学だけではないかも)では、単独で大会運営できるところがどれだけあるでしょうか。右肩下がりの現在、後戻りはできないにしても、今一度ふり返ってみる必要があると思います。

※編集者注

第 6 回 (1983 年度) インカレ

1984 年 3 月 4 日開催 『摂丹街道』(その後『湯谷ヶ岳』『走落神社』としてリメイク)

*インカレ運営体制 (第 1 回～6 回)

<http://www.orienteering.com/~uofj/media/ic/ic-1978.html> (日本学連 HP)

*インカレロング上位入賞者一覧

<http://www.orienteering.com/~uofj/?blogid=1&catid=1&itemid=136> (同上)

連載 第4回!

「国際交流とオリエンテーリング」

番場 洋子 ((株)堀場製作所)

今回は何を書こうかなと考えていたある日、私のブログにある書き込みがありました。書き込みの主は、Peter ?? Sweden Orienteering team とありました。日本で販売している靴について知りたいことがあり、メールしてほしいとのメッセージでした。後から聞いたところによると、何人かの知っている日本人オリエンティアを頼って、こんな感じのお願いをしていたそうです。そういえば、私も、自分が昔遠征をしたときに見ず知らずの地元の人に助けてもらったことを思い出しました。

2002 年に O-ringen から始まり、ユニバーシアードまで、ほぼ 1 ヶ月遠征した時のことです。当時、海外への 35 日間 FIX のチケットを買った限りはできるだけ長く向こうにいないと損、という発想で、大抵 1 ヶ月ほどの遠征をし、各地を転々と大会に出ていました。

O-ringen ほどの大きい大会なら、海外から来る人も想定されているので英語のブリテンにも十分な情報がありますが、ほとんどの大会は、多少の英語の案内文はあるものの、詳細は記載されていません。チェコのイーチンという岩だらけで有名な地域の 5 日間大会に出たくて、そのページを見たのですが、International Competition をうたっているのですが、細かい会場案内や宿泊案内などの、行くのに必要な情報が取れませんでした。

そこで、チェコの（おそらく、読めないけど）オリエンテーリング協会のページの掲示板に、行きたいのだけど情報がほしい！と書き込みをしました。すると、向こうの親切な方がメールを下さり、相談しているうちに、会場のバンガローがあってその人も予約するから一緒にひと棟借りておいてあげるよ、ということになり、駅からの行きかたやエントリーについても手伝ってくれて、無事、現地に行けて、そこで初めてその親切な方にお会いしてお礼を直接言えた、かつ、その人は結構ハンサムだったというオマケつきで、楽しい遠征になったという経験がありました。

国際交流という 4 文字だけ聞くと、なんだか堅苦しいイメージがありますが、オリエンテーリングを通じて、他の国の人と情報交換したり、助けてもらったりする、そんなコミュニケーションも実は国際交流で、これだと自然に交流できる気がします。インターネットが普及している今は、オリエンテーリングという共通の趣味を持つだけで、世界は広がっていくのだと思います。そんな宣伝文句でも、オリエンティアを増やせたらいいですね。来年、日本でアジア選手権が開催されますが、たくさんのほかの国の選手が来てくれることを期待したいです。

で、最初の話ですが、最後にオチがありまして、そのブログに書き込みをくれた人物は

実は WC で優勝したこともあるツワモノでした。知らなかった風だった私に対して、怒ってないことを願いつつある今日この頃です。

[連載] 関 東 だ よ り <<5>>

瀧川 英雄 (OLC ふるはうす)

◆大会出場報告 (9 月末～11 月初)

9/26 埼玉パークOツアー第 6 戦 (美杉台公園)

LONG 1 藤沼 16:20 10 瀧川 19:54 19 奥村 22:11

9/27 東京スプリント (小金井公園)

M50A 1 安部 17:15 4 澤地 22:30

M35A 1 国沢 15:07 2 瀧川 15:38 8 井上 19:54

10/10 さいたま全日本リレー対策第 2 回練習会 (参加：瀧川)

この時期の大会参加は、菅平・福井・新潟など関東以外のレースが中心だったので、今回は報告内容が少ないですがご容赦ください。

- 9/26、27 は土日でスプリント 2 連戦。26 日は飯能での山スプリント。会場へ向かう時にさっさと走り終えた奥村とすれ違う (彼とはどこでも会う)。私にとって久しぶりの山スプリントは関西パーク O を思い出し、ちょっと懐かしい。順位も相対的には山の方が良い。
- 9/27 は一転して全くフラットな公園の中のスプリント。澤地さん・井上さんの参加もあった。私は 35A で最近復活の国沢に競り負け。この日はレース後玉川上水沿いを走って帰ることにしていたので、澤地さん・井上さんのゴールを待たずに失礼しました。家まで約 20 km、レース後の長距離ジョグは疲れた。

<さいたま全日本リレー対策第 2 回練習会について>

第 1 回に続き、第 2 回も県外にオープンしてくれたので潜入しました。全日本リレーは終わってしまいましたが、要点を報告します。トレインは上谷。

- まずは机上でのルートプラン練習と吉田監督によるレクチャー。ルートプラン練習は、ワンレグだけの簡単な地図で、一見同じようでちょっとだけ違うコースが 8 種類並べられ、それぞれ、ルートとチェックポイントを記入するというもの。そのうえで、

各自が何をチェックできるか、それを意識してルートプランをすべしといったレクチャーがあった。

- 次は、アタック練習。上谷の難易度の高いエリアに、アタックの難しいレッグを続けたコースが用意された。グループで行動し、この前のレクチャーを踏まえて、ワンレッグ毎にルートとチェックポイントを定めからスタートし、次のコントロールで合流するというスタイルで続ける。「きっちりプランするとそのとおりに行ける」という感触と、傾斜変換のあるゆるやかな部分の活用が効果的だったことが収穫。また、グループを引っ張ってくれた高橋（善徳）と、意見交換できた点もよかった。
- 最後に 2km 程度のコースを一斉スタートのリレー練習。先頭集団からは置いていかれ、中盤は淡々とやっていたが、途中で先行した若手の姿を追いかけてから大きなミス。人を意識して自分のレースへの集中が途切れるとミスをしやすいことを実感。
- この練習会では、「難しい林の中の直進では、自分にとってチェックしやすいものを利用する」という基本を再認識し、それは全日本リレーでも実践することができた。具体的には、私のオリエンテーリングでは、等高線の読み取りと地図・現地の対応力が生命線で、それを生かすルートを意識した。全日本リレーの勝負どころの MS⑨では、ピークの数进行きっちり数えて場所をピンポイントで特定したところから林に入り、林の中では常に右に沢を見ながらその一段上を走るというルートをとったのがその典型例である。

《大会運営報告》

パーク0ツアー in 関西 大阪大会

野澤 建央（大阪 OLC）

長い間計画されてきました「せんなん里海公園」での OLC 大会、やっと実現しました。大阪 OLC としては、久しぶりの NEWMAP、NEW テレインです。地理柄今回は実施上楠見さんが 1 人で調査を頑張ってくださいました。テレインが狭い分、コースをよく読まない、思わぬ勘違いを起こすテクニカルなコースになっていました。地図に書いてあるように、今回使用された部分は公園の東半分です。西も実は地図は存在します。すなわち、今後拡大使用、分割使用が可能なテレインです。今回は使用しませんでした、砂浜もあります。そして夏は海水浴場です。次回以降はそれらを活用した OLC が考えられたりし、想像に事欠かないテレインです。

また今回は、朱雀 OLC 所属選手の世界選手権参加記念壮行会で実施され非常に面白か

った「短時間スコア」を「ウインドウ短時間スコア」に変形し、「追加特別メニューとして」実施しました。パークOで参加者からよく耳にするのが、「わずか10分ちょっとのレースで終わってしまうのは、もったいない」という声にこたえるイベントでした。大阪パークでも前回（OLCふるはうす主管）は、ウエスタンカップをにらんでの追加練習が実施されました。予選・決勝というオーソドックスな方法もありますが、OLらしいトレーニング、あるいはランニング要素の高いトレーニング等々今後はメインメニューとおまけといった形がより一層求められてくるのではないのでしょうか？

今回は表彰式をおこないました。当初個人的には、時間はかかることもあり消極的でしたが、表彰状の授与でなく、賞品を渡していくのであれば、賞状の名前書きの手間もなく、比較的短時間で実施できるとともに、地元名産を交えれば、楽しいものになると考え直し、今回は地元特産商品の水ナス、地元銘菓、地元会社グッズ、実用品をそろえました。

さて、以下は当日運営に携わった方々からのクラブ会報への投稿を一部修正したものです。

◎パークO ツアー関西大阪大会の地図・コースについて（楠見 耕介）

1. 地図に関して

（1）計画～調査の期間

今回のテレイン、せんなん里海公園の地図については、2006年の4月には沖浦さんが原図をすでに入手していて、その年の6月には私の手元に届いていました。それ以降、箕面の全日本という大きなイベントが入り、調査に取りかかったのが、地図面にある2008年7月です。野澤会長と2人で出かけたのですが、海水浴の人々があふれる”ピチピチビーチ”の調査ということで悩んで、アロハシャツに麦わらという格好で出かけたのを覚えています。潮騒ビバレーより西側の部分をひととおり仕上げたその日は終わりました。”ふわふわ”で出来た巨大ウォータースライダーの”ヒッポー”の写真を撮ったのもこのときです。2月のウエスタンカップの開催がきまっていたこともあって、当然そちらが優先となって里海には手付かずでした。結局、調査の再開は、9月の大会開催の3ヶ月前の今年の6月でした。和歌山の自宅からも近いこともあってクロスバイク（自転車）で調査に通い、この日から8日の調査で終了しました。

（2）スプリント図式の調査

一般の0-Mapの図式のJSOMでは、道を幅によってランク分けして、0-mapに変換して行く作業があります。スプリント図式の1:5000という縮尺では、道はほとんど実寸で表現されます。たとえば、幅2.5mの道は1:5000の地図上では幅0.5mmの2重線で表現されます。一方、調査原図にしている1:2500の行政図でもほとんどに道は実寸の2重線で表示されます。ということで、道の調査に関しては、原図の道をかなり利用できることになります。今回の

里海公園の場合、地図の東側のピチピチビーチとその南側の多目的広場周辺、地図の反対側の潮騒ビバレー付近は完成した公園が地図化されていて、原図の道をほぼそのまま利用することが出来ました。逆に地図の中央付近の”うみべの里”付近は、地図上では「工事中」で、道もまったくえがかれていないし、造成中の盛り土にそって直線的にコンターが引かれているだけという状態でした。じつは、このほとんど原図が当てにならないところを、歩測とコンパスで地道に調査したのは野澤会長で、里海公園の地図に懸ける意地がよく現れていました。

道の表現のほか特に気を付けたいのは、壁やがけの表現です。いままでひげ付きのガケの表現がよく使われて、ひげなしのほうが例外とっていい状況でした。コンクリートの擁壁などもひげ付きで表現されることが多かったと思います。スプリント図式では、黒またはグレーの実線で壁やガ

ケが表現されます。このため、細かい人工物も相対位置を含めてかなり正確に表現できるようになりました。

2. コースについて

今回のコースセットですが、私が案を考えて、野澤会長が最終調整という形で進めました。スプリントらしい課題を問うこと、15 分のウイニングタイムに近づけることの2点を重視して案を考えました。スプリントの課題の一つにルートチョイスの課題があります。里海公園は東西に細長い公園に東西方向に並行して道が伸びているので、ロングレッグでルートチョイスを問うのは不可能ということで、通行不能の柵をどう回りこむかという課題のレッグを取り入れました。柵越えて失格した人が出た106→120 のレッグです。他の課題では、レッグの方向を連続して転換をさせ、さらにその中に鋭角のレッグも取り入れることで、ラフコンパスでは狂いやすい脱出方向の正確さを問いました。また、花壇の入り組むところや似たようなこぶが並んでいるところで、正確ですばやい地図読みを要求しました。MAでは、これらの課題すべて、他のクラスでも鋭角レッグを除いてこれらの課題を取り入れたコースを組むことが出来ました。ラップ表からは、ルートチョイスのレッグと鋭角レッグで難易度が高く出ている程度狙いが成功したと思います。細かい地図読み部分については、MA の上位ではそれほど差がつかず、高速走行での細かい地図読みのマスターが、上位進出の最低条件になっていることが伺われます。ウイニングでは、類似トレインのルート距離1km あたりのタイムを参考にして、コース距離を決めました。2 月の万博公園大会と7 月のたぞがれ0です。万博公園ではスタート枠からスタートフラッグまでの距離が割りとあったので、この間もルート距離に含めて参考にしました。MAの3.1km は、ウイニング15分ではほぼお約束という長さです。松澤さんや小林さんそして中村貴史の欠場でプログラムでは17分の予想を立てていましたが学生0Bさんの快走により、お約束どおりのウイニングタイムが出ました。次に、何度もコースを組んでいる和歌山パークではどうしてもウイニングが20分を越えてしまっていたWAですが、今回は思い切って短くすることにしてMVの共通コースにしたこと、加えて昨年度ツアーチャンプの好走で16 分台が出て

大満足しています。そのうえ、MS・MVはそろって15分台、W40もわずかに16分を超えたタイムということで、快適なスプリントレースを楽しんでいただけたと自負しています。

また、せんなん里海大会は、日本スプリントランキング対象大会に指定されていました。日程が近かった名古屋パークや埼玉ツアーズは、当日の随時スタートということで対象外になったものと思われます。地図・コースだけでなく、スタート形式といった競技運営面も、一定評価されているという結果ではないでしょうか。

◎パーク0 ツアー関西大阪大会について (石原 孝彦)

9月27日パーク0 大阪大会にスタート係りとして運営に参加してきました。スタートの担当は箕面での全日本、前回のウエスタンカップ、服部でのセクションと、脇役ながらお手伝いさせていただき全体の流れはつかんでいる感じでしたが、担当間の打ち合わせ少なく多少の不安を抱

きながら当日を迎えました。朝8時にゴール南側の踏み切り近くに集合し、荷卸しの後本部の設営、そしてポストの設置なのですが、これが以外に手間取りました、それは地面が硬くてハンマーで打てどもアングルがなかなか入りませんでした、その上、清掃員が職務を忠実に遂行した為、事前のテープ巻きが（実際は小さな杭＝割り箸でしたが）多くの場所で無くなっており設置確認に時間を要したためでした。設置が終わってスタート地点に戻ったのがトップスタートの30分程前でバタバタでしたが、野沢（文）さんがスタート枠を作って頂いており大変助かりました。今回、大阪府民大会も併設されており、スタート枠は全部で3レーンとなり、当初 坂本さんと二人の予定が急遽 上松さんも手伝いに入ってもらったおかげで3人体制となりスタートでのトラブルも無く滞りなく終了しましたが、多少の課題も感じました。一つは最近の電子機器の利用で運営が簡素化され、スタッフのマニュアルもプログラムを代用する方向になりつつありますが、練習会レベルでは良いと思いますが公認の大会では用意する備品等も含めて何らかの覚書のようなマニュアルがあればと思います。

また、テントの設置も経験者以外では、スムーズに組み立てにくく、ポールのショックコードも途中で切れておりどの部分につながるのか理解するのに時間かかかりました。大会当日は忙しくてそこまで気が回らないので、別に時間を取ってポールに色別にテープを巻くなど修理する機会が必要だと感じました。

◎関西パーク0ツアーin 大阪の運営 (上松 晋也)

今回、大阪OLCに入り初めて運営に参加させていただきました。朝3時半のフェリーに乗り込み和歌山へ。7時に現地に到着すると、そこは前から広そうだな、と思っていた公園。8時に運営者集合し、荷物番終えて設置に向かうと、「全部見て回ってきてね。」…え？ボク確認？久しぶりのオリエンなので不安は感じつつ、とにかく回ってくる。終わ

ったらすぐスタートに回って、午後のスコアOの準備して、片付けして、としていたら、あっというまに終了。ずいぶん久しぶりの運営でしたが、何とかそつなく終わりました。関西パークOツアー自体久しぶりで、参加者が多いのかどうかはわかりませんが、天気にも恵まれ良い一日となりました。

◎パークOツアー関西 大阪大会 計セン報告 (山田 知度)

今までは大抵阪本さんがEMI T関連の処理を実施していましたが、今回は恐れ多くも私がメインとなって計センを担当することになりました。

事前エントリー関連の処理は阪本さんが全てやってくれていましたので、私はMULKAの設定を当日までに実施することだけでした。これもほとんど沖浦さんがやってくれていました。一点だけ不安だったのは、まだ正式リリースされていないMULKA 2. 6のバージョンを使用するという事で特にスコアOの処理がきちんとできるのか？というものでした。ログインでも成績確定までに何かとトラブっていたような話も耳にしたので。

野澤会長からは念のためMULKA 1でも処理できるようにバックアップはしておいて欲しいという依頼もあったのでどちらかというと私はバックアップの仕事が事前ではメインとなりました。とりあえずはMULKAに強制的に数値を入力して思っているスコアがきちんと出るかのシミュレーションを重ねていました。

とりあえず会場はテントの設置だけ済ませてコントロール設置にあたりました。が、岩場の上に土を盛って整地したためか全然アングルが刺さりません。グラグラするアングルに不安を残しながらも割り当て分を終えて計センの作業に取りかかります。MULKAのネットワーク構成もクロスLANケーブル1本で比較的スムーズにできたので順調に思えたのですが、思っていたより当日受付が多くて入力に手間取りました。沖浦さんも受付と計センを往復しながらで大変そうでした。で、当日受付のデータを入力している最中にフィニッシュしてくるのでバタつき始めました。フィニッシュしたもののまだデータが入っておらず、「ちょっと待って下さい。」なんてことも結構ありました。

この点は人員的に余裕があるのであれば当日受付開始後は計セン担当者を他の業務と重複させないことである程度はクリアできると思います。また、受付中にフィニッシュする状況が発生するようであればPCは2台ないとしんどいです。基本的には1台を読み取り、もう1台をデータ入力と分業させたほうが安全です。午前中は手間取りながらも全成績を出して終了。スコアOの準備にかかります。スコアOも当日受付があったのでまたデータ入力です。こういう時に前レースの参加者データをうまく使えればいいのですが、ややこしくなりそうなので今回は手入力としました。

で、スコアOなので当然制限時間ギリギリに計センに集中します。処理は何とかうまくできた模様です。今後の課題はいかにミスを失くしつつ、うまく受付と競技を併行することができるかということではないかと思います。

◎パークO関西 大阪大会 (沖浦 徹二)

2009.9.27開催「泉南里海公園」大会参加者：パークOツアー60名。大阪全日本の地図作成の中心者の楠見さんが作図され、今回の地図が完成しました。海水浴場を含むMAPで、調査期間が夏に集中しているのは何故？と思ったりもしますが、地図の精度や見やすさは、さすが楠見さんだと感心すると同時に、大阪OLC所有の新しいO-MAPができたことを嬉しく思います。また、テープ巻きの時にいろいろ話をさせていただく中で、楠見さんのO-MAPに対する意識の高さが、きちんとした地図をつくる原点にあることも痛感しました。

運営面での裏方的作業は沖浦がにないました。主な業務は、資材関係の準備と計算ソフトmulka2の事前準備です。今回は、午後の特別メニューとして、10分間のスコアOをすることになりましたが、スコアOでmulka2の使い方が分らなかったため、的場さんにメールをしたところ、素早い対応でアドバイスをして下さい、事前データの作成はうまくいきました。ただ、mulka2をスコアOで使うのは、ぶっつけ本番（出たところ勝負）だったため、ドキドキでした。山田さんが熟練した動きをして下さり、一部の参加者のタイムが？な部分はありませんでしたが、きちんと処理できました。スコアOでmulka2を使えるようにしておくことは、11/15の箕面ロゲインの練習として必須でしたが、今回の経験が箕面ロゲインの計算センター処理にも生きることと思います。大会運営にいくつかの反省点について、以下に記載します。

① 今までのクラブでのパークO開催地としては、最も地面が硬く、設置に予想以上に時間を取ってしまったこと。また、公園使用許可を得ていたにもかかわらず、公園事務所内の連絡が悪く、大会当日、事務所の窓口の人が我々のことをきちんと理解していなかったというのも、時間を取る大きな要因になりました。これらの結果、会場までやスタートへのテープ誘導・スタート枠の設置・当日受付の処理などが、時間的にギリギリになりました。運営慣れしているスタッフが機転を利かせた行動をとって下さったことで、何とか処理できましたが、前週のクラブカップの二の舞で、スタート時刻繰り下げか？と最悪の事態も一瞬、頭をよぎりました。テープ巻きの時に、アングルを持って行って、地面の硬さを事前に認識できていれば、対策をとることができたと思います。

② 運営慣れによる緊張感の欠如が若干みられたこと。地図ができました。Eカード関係の準備もできました。でもそれだけで、大会運営をきちんこなせるわけではありません。スタッフの動きや資材の場所が、チーフの頭の中にあるだけでは何の役にも立たないわけで、スタッフ全員が業務をちゃんと理解して動かないとミスの危険性が高まります。そのためには、事前にミーティングを開いて、大会の流れやスタッフとしての動きを確認すること。それができない時は、少なくとも当日の朝、きちんとミーティングをしてから動き出すこと。今回は、前述したように手慣れたスタッフの臨機応変な対応により、トラブルなく大会は成功しましたが、今後に向けての課題です。

大阪 OLC トレイル 0 大会 & フット 0 練習会のお知らせ

阪本 博（大阪 OLC）

IOF（国際オリエンテーリング連盟）で「これがオリエンテーリングだ」と認めている種目が4つあるのですが、ご存知ですか？ フット0、スキー0、MTB-0、そしてトレイル0の4つです。

そして、この4つのオリエンテーリングのうち、唯一世界選手権で日本選手がメダルを取っているのがトレイル0なのです。（2005年 杉本光正選手 2009年 木村治雄選手 いずれも銅メダル）。まだ金メダルには手は届いていませんが、日本は世界の中でトレイル0の強豪国として知られています。

トレイル0はコースを回る速さを競うのではないで走力は要りません。地図と現地を対応付ける力に優れた選手が勝ちます。なので走力のない不肖阪本も実は世界選手権出場を狙っています。まずは全日本大会で優勝することですね。昨年初夏の前回全日本ではEクラスの一つ下のAクラスで優勝でき、やっと日本一を目指す土俵に立てました。

で、トレイル0を続けていくためには、選手として大会に参加するだけではなくフット0同様たまには運営者とならねばなりません。去年、高校生の頃からフット0のみならずトレイル0でも頭角を現していた伴毅君が大学進学で京都へやってきたので、二人で「関西でトレイル0大会を開きたいね」という話になり、それを実現するべく動きました。「阪本・伴トレイル0大会」では渉外面で困難があるので、大阪 OLC にお願いして大阪 OLC 主催という形にしてもらい、当日運営も大阪 OLC のクラブ員に手伝ってもらうことにしました。

もう間もなくですが、11月29日（日）に服部緑地で開催します。

この大会はJOA公認大会であり、Aクラス上位10名は次の全日本トレイル0大会のE権を獲得できます。Aクラスには日本全国から20～30名程度の参加を見込んでいます。

また、トレイル0の経験がないか少ない人のためにBクラスも設けています。この機会にあなたもトレイル0を体験してみませんか。

しかし、悲しいことにこの程度の参加人数では採算がとれません。そこでフット0の練習会を併設することにしました。フット0の上級クラスの競技形式は「メモリー0」です。地図は渡さず、各コントロールにある地図を覚えてコースを回ってもらいます。的確なチェックポイントをできるだけ数少なくしてルートプランをする練習です。このようなルートプランができれば覚えることも少なくて済むはずですが、山中でやるには少し怖い練習ですが、公園の中なので覚えたはずのコースを忘れてしまっても何とか会場には帰れます。

公園ならではの練習といえるでしょう。

申込受付は11月17日までしています。要項は大阪 OLC のホームページ
<http://www.tim.hi-ho.ne.jp/ykoba/>
からご覧ください。当日申込もありますので当日急に都合がついた方もぜひお越しください。ただし、トレイル0大会Aクラスの当日申込者は全日本大会のE権は獲得できません。

編集後記

全日本リレー出場選手から多くの投稿をいただきました。文章からは、それぞれの想いが伝わってきます。

河合さんには、関西で初めての開催となった「第6回インカレ」について書いていただきました。今から25年も前のビッグイベント。貴重な記録だと思います。

次号は、年末の発行を予定しています。

編集・発行：土屋俊平（府協会理事・OLC ふるはうす）